

## 1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	7月の価格情報				8月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の8月下旬までの見通し	「図の見方」			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		上旬							
	中旬	下旬	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額								
葉茎菜類	キャベツ	74.19	70 (94%)	68 (92%)	74.19	67 (90%)	・入荷量：15,513t ・主産地：群馬（79）、岩手（14）	平均価格	群馬産は、前進出荷となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。岩手産は、天候不順による日照不足から生育に遅れが見られたものの、気温の上昇や適度な降雨により生育は回復し、後続も順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 群馬産及び岩手産の出荷が、平年より多め若しくは平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。			
		88.91	73 (82%)	71 (80%)	88.91	69 (78%)	・入荷量：3,856t ・主産地：群馬（76）、長野（20）	平均価格				
	たまねぎ	93.34	157 (168%)	159 (170%)	93.34	185 (198%)	・入荷量：9,711t ・主産地：北海道（56）、兵庫（21）、佐賀（11）	平均価格	北海道産は、8月6日から主産地で共選がスタートしており、多雨の影響が懸念されたものの、品質等に大きな影響はなく、生育はおおむね順調であることから、平年よりやや多めの出荷の見込み。兵庫産は、べと病等の発生により下等級品が多いものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。佐賀産は、現在貯蔵分の出荷となっているものの、べと病の影響等により、貯蔵分が平年に比べ大幅に少ないことから、引き続き平年より大幅に少ない出荷の見込み。			
		93.34	173 (185%)	168 (180%)	93.34	213 (228%)	・入荷量：3,623t ・主産地：兵庫（61）、北海道（27）	平均価格				
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	419 (146%)	299 (104%)	287.00	250 (87%)	・入荷量：4,174t ・主産地：茨城（33）、青森（18）、北海道（14）	平均価格	茨城産及び青森産は、天候に恵まれ順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、7月まで気温が高過ぎない状態が続き順調な生育となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。			
		487.13	389 (80%)	356 (73%)	487.13	373 (77%)	・入荷量：199t ・主産地：香川（29）、徳島（17）、三重（15）、奈良（12）、大阪（11）	平均価格				
	はくさい	58.82	54 (92%)	55 (94%)	58.82	55 (94%)	・入荷量：5,956t ・主産地：長野（94）	平均価格	長野産は、適度な降雨と好天に恵まれ、生育が順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。			
		62.79	54 (86%)	51 (81%)	62.79	53 (84%)	・入荷量：2,572t ・主産地：長野（100）	平均価格				
	ほうれんそう	583.95	607 (104%)	584 (100%)	583.95	572 (98%)	・入荷量：774t ・主産地：群馬（31）、栃木（22）、茨城（16）、岩手（12）	平均価格	群馬産は、前進出荷傾向でやや多めの出荷となっているものの、今後は前進出荷の影響で端境が生じ、平年より少なめの出荷の見込み。栃木産は、梅雨明けの高温による生育疲れ等となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。岩手産は、気温の上昇により生育が緩慢になっている産地もあるものの、概ね生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		670.86	684 (102%)	646 (96%)	670.86	607 (90%)	・入荷量：394t ・主産地：岐阜（81）、北海道（12）	平均価格				
果菜類	レタス (結球)	120.13	103 (86%)	97 (81%)	158.27	95 (60%)	・入荷量：9,417t ・主産地：長野（83）、群馬（13）	平均価格	長野産は、干ばつぎみではあったものの、生育は順調で、高冷地及び準高冷地の二期作の出荷も始まることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。群馬産は、概ね生育は順調で前進出荷傾向であることから、引き続き多めの出荷の見込み。			
		125.61	110 (88%)	97 (77%)	152.57	95 (62%)	・入荷量：1,963t ・主産地：長野（99）	平均価格				
	きゅうり	221.22	329 (149%)	248 (112%)	221.22	171 (77%)	・入荷量：8,173t ・主産地：福島（41）、岩手（24）、秋田（14）、山形（6）	平均価格	福島産は、成り疲れや夜温の低下で草勢の低下がみられるものの、出荷量は確保できていることから、今後も平年並みの出荷の見込み。岩手産は、梅雨の天候不順による生育の遅れから回復してきてはいるものの、病害虫の発生が見られるところから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。秋田産は、出遅れていた産地が出揃い現在多めの出荷となっているものの、今後は出荷が落ち着くと見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。			
		232.80	311 (134%)	244 (105%)	232.80	181 (78%)	・入荷量：2,098t ・主産地：福島（34）、北海道（24）、愛媛（23）	平均価格				
	トマト (大玉)	252.46	290 (115%)	284 (112%)	252.46	252 (100%)	・入荷量：9,927t ・主産地：青森（21）、北海道（18）、福島（16）、群馬（12）、岩手（9）	平均価格	青森産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、8月に入り気温が上昇し、生育も回復していることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。福島産は、生育は順調なことから、やや多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。群馬産は、生育遅れの収穫が重なり、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。			
		298.46	314 (105%)	311 (64%)	298.46	280 (94%)	・入荷量：2,332t ・主産地：北海道（44）、岐阜（31）、岡山（9）	平均価格				
	なす	230.51	356 (154%)	334 (145%)	230.51	238 (103%)	・入荷量：5,043t ・主産地：栃木（31）、茨城（26）、群馬（25）、埼玉（6）	平均価格	栃木産は、梅雨明け以降の天候の回復により生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、適度な降雨と気温の上昇により遅れていた生育が回復し、現在一時的に平年より多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。群馬産は、前進出荷のため多めの出荷となっているものの、梅雨明け後の高温による花落ち等が見られることから、今後は平年並みの出荷の見込み。			
		232.81	300 (129%)	323 (139%)	232.81	239 (103%)	・入荷量：1,248t ・主産地：山梨（29）、徳島（15）、群馬（8）、奈良（8）、大阪（7）、京都（7）	平均価格				
	ピーマン	276.65	444 (160%)	411 (149%)	263.58	287 (109%)	・入荷量：2,400t ・主産地：岩手（50）、茨城（16）、福島（14）、青森（13）	平均価格	岩手産は、梅雨の天候不順による生育の遅れから回復しているものの、やや影響が残っていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、初期着果が遅れていたものの、最近の好天により回復しており、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、現在は平年よりやや多めの出荷量となっているものの、今後は高温による草勢の低下から、平年より少なめの出荷の見込み。			
		293.32	404 (138%)	334 (114%)	296.27	240 (81%)	・入荷量：583t ・主産地：青森（19）、兵庫（15）、北海道（13）、大分（9）、福島（7）	平均価格				
根菜類	だいこん	94.60	116 (123%)	95 (100%)	94.60	86 (91%)	・入荷量：9,618t ・主産地：北海道（67）、青森（27）	平均価格	北海道産は、6月の天候不順により播種作業に遅れが生じたことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。青森産は、天候に恵まれ太りも良く生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		95.37	117 (123%)	87 (91%)	95.37	82 (86%)	・入荷量：3,234t ・主産地：北海道（76）、青森（10）、岐阜（10）	平均価格				
	にんじん	133.01	147 (111%)	184 (138%)	123.08	162 (132%)	・入荷量：6,698t ・主産地：北海道（90）、青森（5）	平均価格	北海道産は、各産地の出荷がそろい、生育は順調で作付面積も増加していることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。青森産は、天候に恵まれ太りも良く生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		132.62	149 (112%)	189 (143%)	123.11	154 (125%)	・入荷量：1,947t ・主産地：北海道（96）	平均価格				

## 1 主要野菜の生産出荷状況

種類	7月の価格情報			8月の価格情報			入荷量及び主要産地	生育及び価格の8月下旬までの見通し	「図の見方」		
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			現時点の価格水準	今後の価格水準	
	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬			平均価格	平均価格	
いも類	さといも	361.20	554 (153%)	553 (153%)	254.79	553 (217%)	・入荷量: 461t ・主産地: 千葉(53)、宮崎(34)		千葉産は、生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、降雨等の影響で生育が遅れていた露地物の生育が回復しないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		千葉産の出荷が平年並みと見込まれるもの、宮崎産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		347.90	624 (179%)	386 (111%)	220.11	386 (175%)	・入荷量: 103t ・主産地: 宮崎(73)、鹿児島(11)				
	ばれいしょ	111.77	169 (151%)	156 (140%)	111.77	150 (134%)	・入荷量: 6,007t ・主産地: 北海道(80)、青森(7)		北海道産は、生育は概ね順調なもの、作付面積の減少、降雨による収穫の遅れ等から、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。青森産は、天候に恵まれ肥大も良く生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		青森産の出荷が平年並みと見込まれるもの、北海道産が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		111.77	178 (155%)	166 (149%)	111.77	154 (138%)	・入荷量: 1,218t ・主産地: 北海道(82)、青森(10)				

注: 1 平均価格は、過去6年間(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価額の赤字および青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字および赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。  
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで前年実績である。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

種類	7月の価格情報			8月の価格情報			入荷量及び主要産地	生育及び価格の8月下旬までの見通し	「図の見方」		
	(参考) 過去5年平均価格		東京・大阪市場の旬別価格	(参考) 過去5年平均価格		東京・大阪市場の旬別価格			現時点の価格水準	今後の価格水準	
	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬			平均価格	平均価格	
洋菜類	ブロッコリー	359.68 (112%)	403 (105%)	379	361.38 (123%)	444	・入荷量: 1,519t ・主産地: 北海道(76)、米国(13)、長野(10)		北海道産は、作付面積が増加しているものの、気温の上昇により病害が発生していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。長野産は、高温等に強い品種を導入しており生育は順調なことから、引き続きやや多めの出荷の見込み。		現在、北海道産及び長野産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めとなっている中で、価格は平年を上回っており、引き続き、この状況で推移する見込み。
		374.14 (115%)	432 (107%)	400	374.93 (125%)	467	・入荷量: 352t ・主産地: 北海道(60)、長野(16)				
	アスパラガス	990.95 (116%)	1,145 (102%)	1,008	758.16 (118%)	892	・入荷量: 739t ・主産地: 栃木(22)、長崎(17)、福島(17)、佐賀(15)		栃木産は、一部生育不良が見受けられる地域もあるが、作付面積は増加していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。長崎産及び福島産は、干ばつ傾向で夏芽の生育が遅れ気味であることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。佐賀産は、高温で樹勢の低下が見られるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。		栃木産及び佐賀産の出荷が平年並みと見込まれるもの、長崎産及び福島産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。
		854.32 (131%)	1,121 (116%)	987	816.03 (108%)	881	・入荷量: 177t ・主産地: 佐賀(20)、福岡(17)、長崎(17)、タイ(11)				
果菜類	かぼちゃ	216.73 (103%)	224 (101%)	218	177.84 (127%)	225	・入荷量: 2,874t ・主産地: 北海道(64)、青森(7)、秋田(5)		北海道産は、6月の天候不順の影響で生育が遅れており、花落等も見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。青森産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		青森産の出荷が平年並みと見込まれるもの、北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		165.00 (75%)	124 (106%)	175	164.50 (119%)	196	・入荷量: 1,033t ・主産地: 北海道(51)、NZ(16)、石川(15)、韓国(7)				

注: 1 平均価格は、過去5年(平成23~27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
3 旬別価格の赤字および青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの。太字および赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。  
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで前年実績である。

## 2 トピック — ばれいしょの需給動向等について —

今回は、いもの第1弾として、これから北海道産の出荷が本格的に始まるばれいしょについて紹介する。

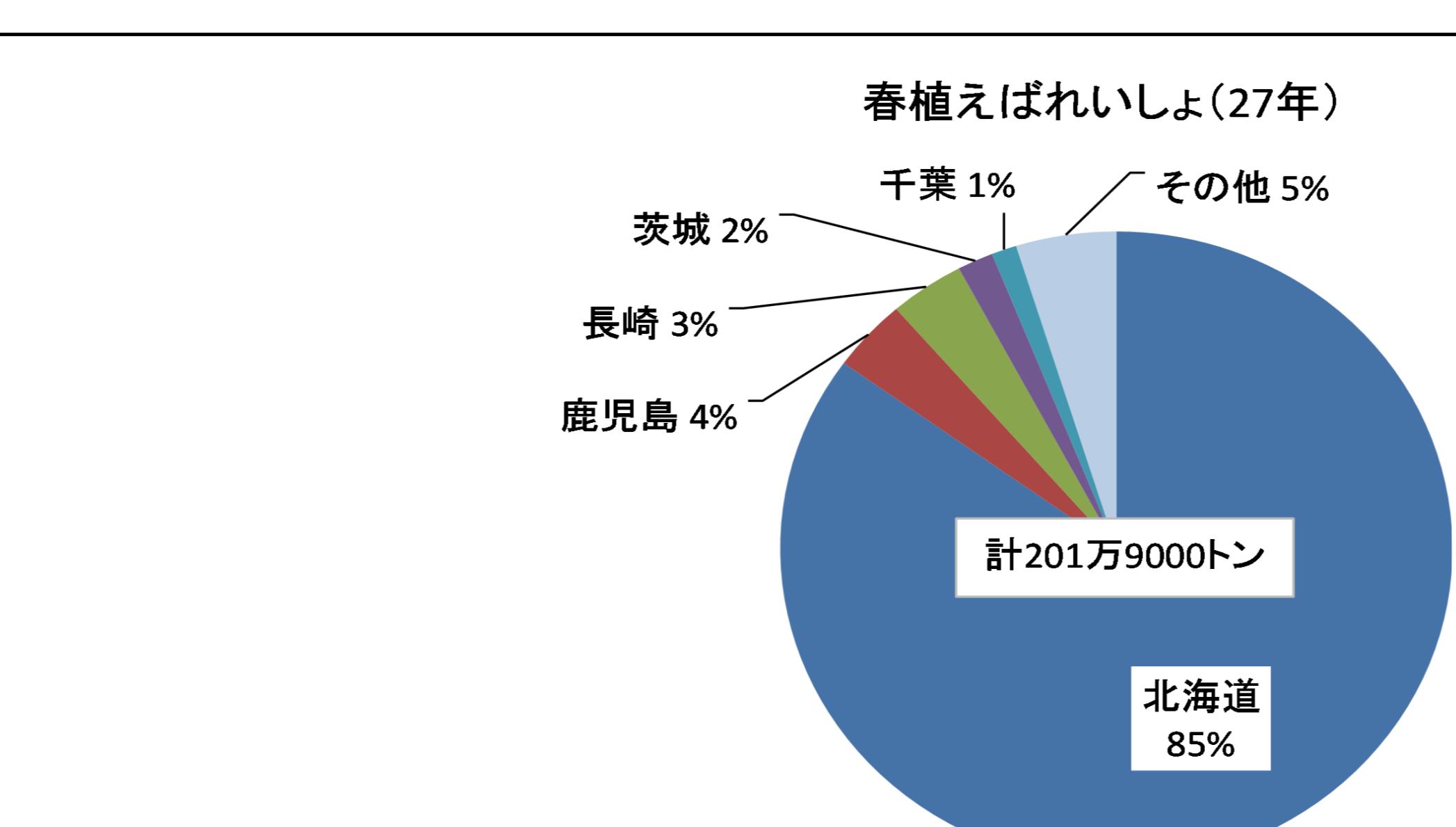
ばれいしょは、南米ペルーが原産といわれており、16世紀にはスペイン人にヨーロッパに持ち込まれた。17世紀に、ばれいしょの生産が始まったアイルランドでは、約100万人の人口が19世紀半ばには800万人を超えるほどに増加したといわれ、その背景には、ばれいしょの耐寒性や土地生産性の高さがうかがえる。アダム・スミスが「國富論」の中で、「ばれいしょは麦の3倍の生産量がある!」「他のどんな作物も、馬鈴薯ほどに栄養に富み人体の健康によく適することを証明できるものはない」と言っているように、人類を飢餓から救う食物として、今や世界の4大作物のひとつとされている。

日本では、江戸時代に、インドネシアのジャカトラ(現在のジャカルタ)を東洋貿易の拠点としていたオランダ人が、船にばれいしょを積んで長崎に持ち込んだことから、「ジャガトライモ」と呼ばれ、それがつまつて「ジャガイモ」と呼ばれるようになり、また、馬の首に付ける輪の形に似ていることから、「馬鈴薯」といわれ、明治以降、本格的に栽培されるようになった。

なお、「男爵薯」は、明治時代に川田龍吉男爵が米国から導入したことから、「男爵」と呼ばれ、日本ではばれいしょが普及するきっかけとなった。今日では、主力の男爵とメークインのほかに、キタアカリ、インカのめざめ、レッドアンデスなど、消費の多様化により、バラエティに富んだたくさんの品種が栽培されており、食卓の彩りを豊かにしている。

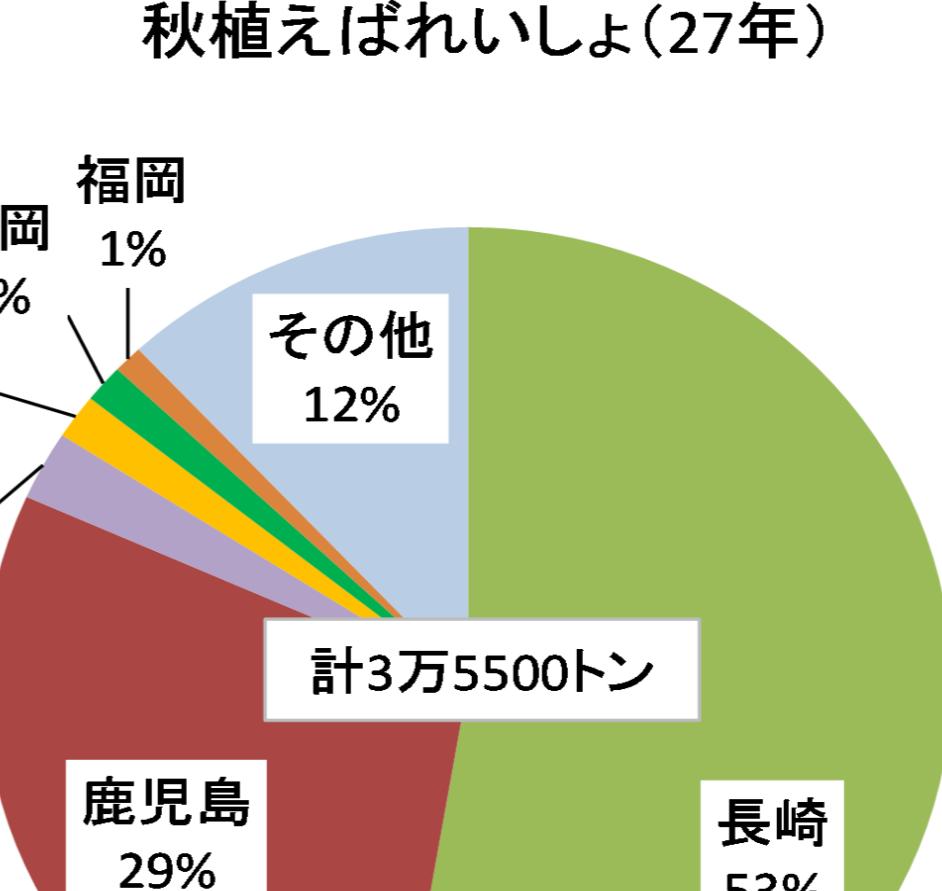
作型は、大きく分けると春植え(主に北海道)と秋植え(主に長崎県、鹿児島県)があり、南北に長い日本では、早春から年の暮れまで1年を通して収穫されるため、日本全国の産地の味を楽しむことができる。ただし、6月から7月は、九州産から北海道産に移る端境期に当たることから、この時期の新たな産地作りを期待する声もある。

出荷量は、昭和61年の323万5000トンをピークに、生産者の高齢化などから、減少傾向で推移している。作付面積は、平成19年の8万7400ヘクタールから26年の7万8300ヘクタールと10.4%減少しており、出荷量も237万トンから205万5000トンと13.3%減少している。

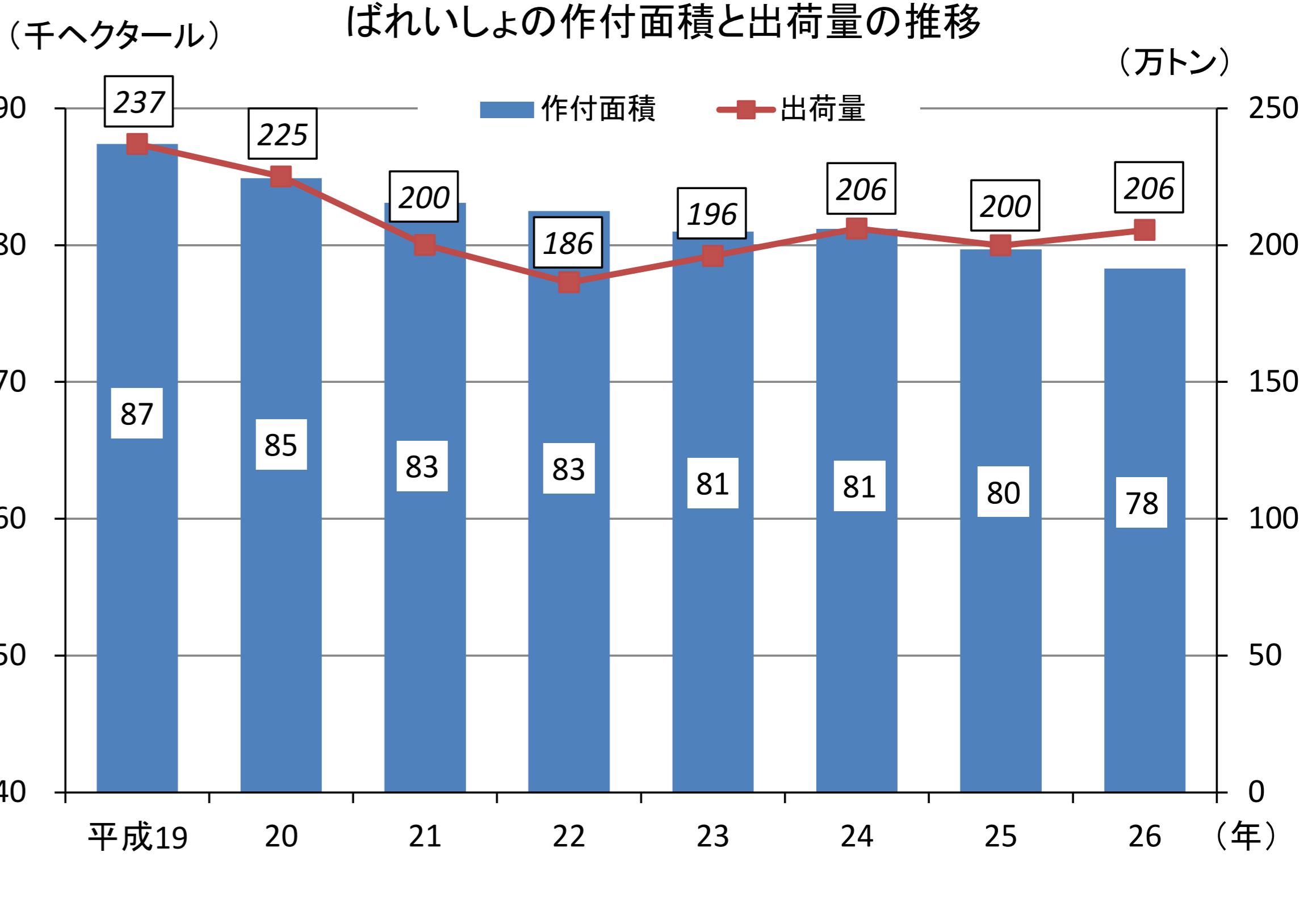
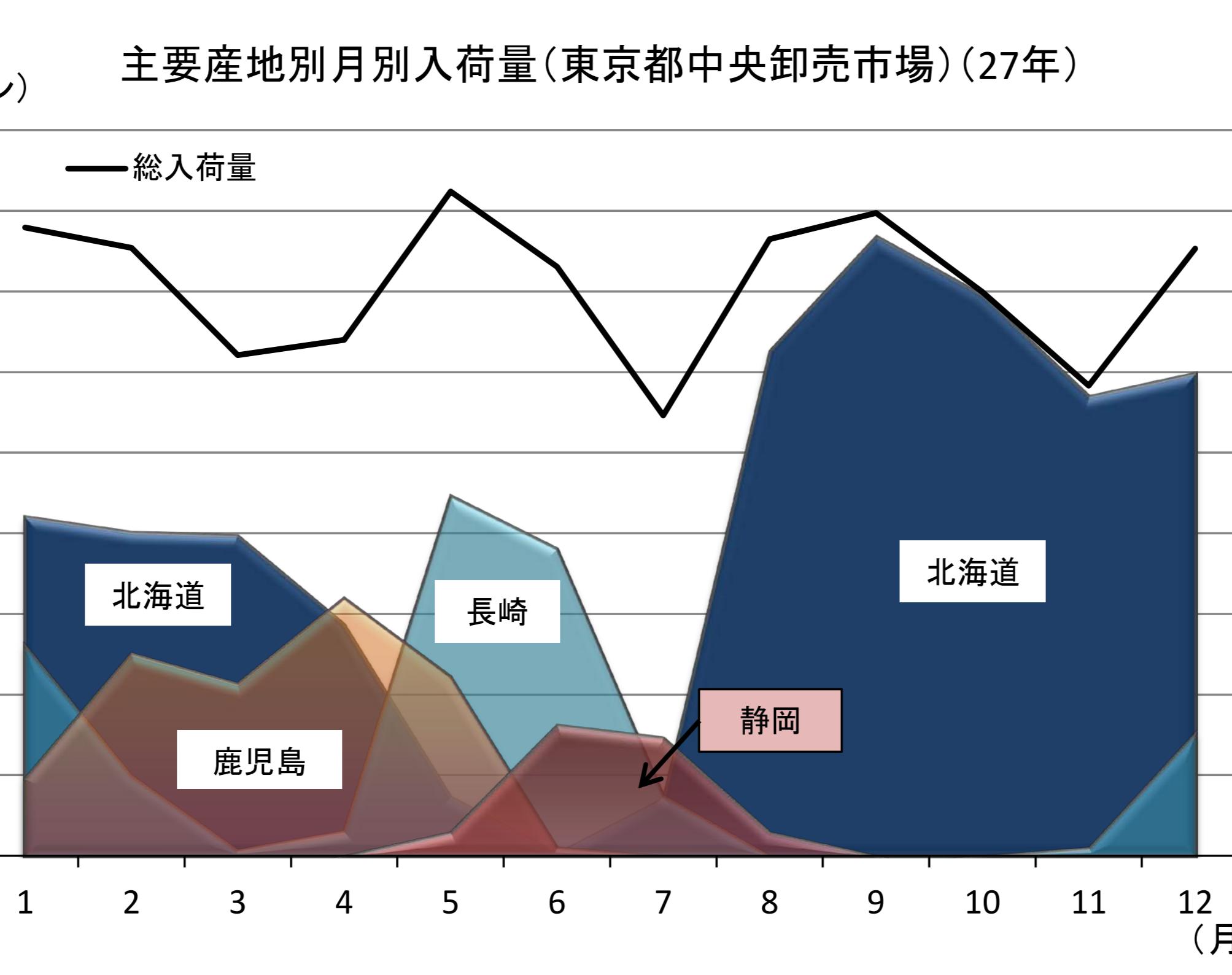


資料:ベジ探(原資料:農林水産省「野菜生産出荷統計」)

秋植えばれいしょ(27年)



資料:ベジ探(原資料:農林水産省「野菜生産出荷統計」)



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メルマガジンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajuku01\\_000058.html](http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajuku01_000058.html)に掲載しています。

※無断転載禁ずる。レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。